

県 政 協 議 会

平成二十九年九月六日(水)

午前十時三十分

- 一、平成二十九年九月補正予算(案)の概要について
- 二、平成二十九年八月二十四日からの大雨による被害状況について
- 三、「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」の骨子案について
- 四、県・市連携文化施設について
- 五、農作物の生育状況等について
- 六、知事の台湾訪問結果について
- 七、2019 FIS フリースタイルスキーワールドカップ秋田たざわ湖大会の開催について
- 八、その他

平成29年度9月補正予算（案）の概要について

平成29年9月6日

(単位：千円)

一 予算規模

1 一般会計

補 正 額 2,840,844

補正後の規模 607,721,154

前年度9月補正後予算との対比 Δ 7,912,527
(1.3%減)

《補正予算の財源》

特定財源 2,216,563

国庫支出金 1,206,627

繰入金 459,436

県債 437,600

その他 112,900

一般財源 624,281

繰越金 624,281

2 特別会計

中小企業設備導入助成資金特別会計	19,469
地域総合整備資金特別会計	△16,839
秋田港飯島地区工業用地整備事業特別会計	5,076
環境保全センター事業特別会計	8,584
県立病院機構施設整備等貸付金特別会計	285,600

二 補正予算（案）の主な内容

今回の補正予算（案）は、国内外に打って出る攻めの農林水産戦略にかかる事業や地域における医療の充実を図るための事業など「第2期ふるさと秋田元気創造プラン」に基づく事業のほか、公共事業等について計上した。

I 「第2期ふるさと秋田元気創造プラン」に基づく事業

- (1) 産地パワーアップ事業 58,113
意欲ある農業者等が高収益な作物・栽培体系への転換を図るための取組に対し助成する。
・実施地区 鹿角地区
・補助対象 水稻・大豆の乾燥調製施設の整備
・補助率 国1/2
- (2) 果樹産地等緊急総合支援事業 20,992
平成29年5月の降ひょうにより被害を受けた農家の経営再建を支援するため、果樹等の再生産に向けた取組に対し助成する。
①病害虫防除薬剤費・肥料費の助成
・補助対象 果樹（りんご、ぶどう、西洋なし等）に係る病害虫防除薬剤費及び肥料費
・補助率 県1/3
②販売促進費の助成
・補助対象 規格外果実（りんご、ぶどう）の販売促進費
・補助率 定額
- (3) ⑩花き種苗センター再編整備事業 9,851
更なる花き生産の拡大に向けた種苗供給体制の再編・強化のため、老朽化した花き種苗センターの機能を見直し、農業試験場敷地内へ移転する。
・事業期間 平成29～31年度
・想定事業費 11億円程度
・29年度事業 実施設計
- (4) 秋田のインバウンド誘客促進事業 54,169
⑪香港・広州等誘客促進事業 32,895千円
インバウンド旅行者の増加が著しい中国エリアからの誘客を促進する。
・事業内容 SNSや動画、観光イベント等による情報発信
日系航空キャリアと連携した誘客促進 等
⑫“あきたで美人に！”推進事業 21,274千円
「あきた美人」を切り口に、食や自然環境、温泉など多彩な観光コンテンツを磨き上げ、認知度向上を図る。
・事業内容 観光コンテンツの整理とプロモーション戦略の策定
SNSや動画等を活用した情報発信 等

- (5) 障害者県地域生活支援事業 4,674
- ①依存症問題に取り組む民間団体支援事業 300千円
 依存症患者等の重症化の未然防止と社会復帰を促進するため、普及啓発やミーティング活動などに取り組む団体に対し助成する。
 ・補助率 国 1/2、県 1/2
- ②障害者総合支援法指定事業所管理システム改修事業 4,374千円
 平成30年4月の障害福祉サービスの報酬改定に対応するため、指定事業所管理システムを改修する。
 ・負担割合 国 1/2、県 1/2
- (6) ⑧たばこによる健康被害予防推進事業 1,932
 たばこによる健康被害防止のため、取組の浸透を図るとともに、対策の強化に向けた検討を行う。
 ・事業内容 たばこ対策検討委員会の開催
 県民の意見を聞く会の開催（県内3カ所）
 事業所等の意見聴取及び普及啓発
- (7) 病院内保育所支援事業 161
 仕事と育児が両立できる雇用環境づくりを推進し、医療従事者の離職防止を図るため、病院内保育所への病児保育室の新設に対して助成する。
 ・補助先 大館市立総合病院
 ・補助率 県 1/3
 ・事業期間 平成29～30年度
 ・29年度事業 実施設計
- <債務負担行為> (4,350)
 ・設定期間 平成30年度
 ・30年度事業 本体工事
- (8) 脳血管研究センター施設整備費補助金 368,583
 脳血管研究センターの増築棟における循環器病床の整備に対し支援する。
 ・補助率 県 1/2
- (9) 医療提供体制整備費補助事業 119,138
 救急医療、がん診療等の特殊な医療に要する設備整備を行う医療機関に対し助成する。
- ①救命救急センター設備整備事業 32,400千円
 ・補助先 秋田赤十字病院
 ・補助率 国 1/3、県 1/3
- ②病院群輪番制病院及び共同利用型病院設備整備事業 6,102千円
 ・補助先 厚生連（平鹿総合病院）
 ・補助率 国 1/3、県 1/3

③人工腎臓装置不足地域設備整備事業 716 千円

・補助先 1施設

・補助率 国 1/3

④がん診療施設設備整備事業 79,920 千円

・補助先 厚生連（北秋田市民病院ほか4病院）

・補助率 県 1/3

(10) 地域医療介護総合確保基金積立金 1,685,827

地域における医療・介護の充実を図るための事業に活用する基金の積み増しを行う。

・積立額 16.9 億円（国 2/3、県 1/3）

(11) 幼稚園 ICT 化支援事業 2,769

幼稚園教諭等の業務負担軽減を図るため、業務の ICT 化を支援する。

・補助先 6園

・補助対象 業務支援システム導入に要する経費

・補助率 国 3/4

(12) 市町村結婚新生活支援事業費補助金 1,800

経済的理由により結婚に踏み出せない低所得者を対象に、結婚に伴う経済的負担を軽減する取組を行う市町村に対し支援する。

・実施主体 湯沢市

・補助率 国 3/4

・補助額 1世帯当たり上限 240 千円

(13) 認定こども園施設整備事業 828

認定こども園の施設整備に対し助成する。

・補助先 大館市

・補助率 国 1/2

<債務負担行為>

○東京アンテナショップ運営事業 (320,365)

平成 29 年度末で店舗賃貸借契約期間が終了する「あきた美彩館」について、平成 30 年度以降の賃貸借契約を締結する。

・設定期間 平成 30～34 年度

○農業近代化資金利子補給金 (56,907)

資金ニーズの増大に対応するため、融資枠の拡大に合わせ、金融機関に対する利子補給の限度額を変更する。

・限度額 228,936 千円 → 285,843 千円

(融資枠 18 億円 → 22.2 億円)

・設定期間 平成 30～49 年度

・利子補給率 個人施設 1.30%、共同利用施設 0.70%

Ⅱ 公共事業

(1) 県単独事業				522,100
・道	路	157,100	(13,229,631 → 13,386,731)	
・河	川	300,000	(6,552,138 → 6,852,138)	
・砂	防	40,000	(948,900 → 988,900)	
・そ	の	25,000	(1,028,721 → 1,053,721)	
・他				

Ⅲ その他

- (1) ⑩ ICT等を活用した住民避難行動支援事業【制度創設】 —
住民の的確な避難行動を促進するため、津波による浸水や火山噴火など市町村が想定する災害のシミュレーション映像等の作成に対し助成する。
・補助率 県1/2
・限度額 1,000万円
- (2) 国民保護共同訓練事業 148
弾道ミサイルの飛来を想定した住民避難訓練を国、県及び市町村が共同で実施する。
・実施時期 平成29年9月27日
・実施場所 由利本荘市西目町
- (3) 電子申請システム更新事業 12,538
行政手続き等に関する県民の利便性の維持・向上を図るため、市町村と共同で利用する電子申請システムの更新を行う。

8月24日からの大雨による被害状況について

平成 29 年 9 月 6 日

秋 田 県 災 害 対 策 本 部

1 概 要

8月24日、低気圧が発達しながら日本海を北東に進み、全県において24日昼過ぎから25日朝にかけて大雨が続き、建物被害、農業用施設の損壊等の農林被害、河川、道路被害等の土木施設被害が発生した。

2 気象情報の発表状況等（8月24日～26日）

種 別	期 間	対象地域
大雨警報 (浸水害)	8月24日15時21分～ 8月25日5時47分	鹿角市、大館市、北秋田市、上小阿仁村、八峰町、秋田市、男鹿市、潟上市、五城目町、井川町、由利本荘市、大仙市、仙北市、横手市（14市町村）
大雨警報 (土砂災害)	8月24日13時17分～ 8月25日15時24分	鹿角市、小坂町、大館市、北秋田市、上小阿仁村、能代市、八峰町、藤里町、三種町、秋田市、男鹿市、潟上市、五城目町、八郎潟町、井川町、由利本荘市、にかほ市、大仙市、仙北市、美郷町、横手市、湯沢市、羽後町、東成瀬村（24市町村）
洪水警報	8月24日14時07分～ 8月26日11時11分	鹿角市、大館市、北秋田市、上小阿仁村、能代市、八峰町、三種町、秋田市、男鹿市、潟上市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村、由利本荘市、にかほ市、大仙市、仙北市、美郷町、横手市（20市町村）
土砂災害 警戒情報	8月24日16時25分～ 8月25日7時20分	鹿角市、北秋田市、上小阿仁村、秋田市、男鹿市、潟上市、五城目町、井川町、由利本荘市、大仙市、仙北市（11市町村）

3 被害状況 (9月5日12時現在)

(1) 人的被害

なし

(2) 建物被害

市町村名	住家被害 (棟)					非住家被害 (棟)				公共施設	その他
	全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水	全壊	半壊	一部破損	浸水		
北秋田市					5				3		
上小阿仁村									1		
秋田市				9	43				6	3	
五城目町				1	10				32		
八郎潟町					1						
井川町									4		
大仙市				2	29				36	4	
合計				12	88				82	7	

(3) 農林水産被害関係

被害総額 802,712 千円

区分	被害額 (千円)	被害内容等	
農作物	205,161	水稻	811 ha
		大豆	57 ha
		野菜	8 ha
		花き	0.6 ha
		果樹	0.1 ha
		その他 (そば等)	23 ha
		小計	899 ha
農業生産用施設等	371	パイプハウス	1 棟
		保冷車 (酪農用)	2 台
農地	89,355	水田・畑	94 箇所
農業用施設	266,525	ため池	8 箇所
		頭首工	7 箇所
		水路	100 箇所
		揚水機	17 箇所
		道路 (橋梁含む)	30 箇所
		小計	162 箇所
水産関係	1,450	養殖魚等	3 箇所
林業関係	239,850	林地	4 箇所
		林道	51 路線

(4) 公共土木施設被害関係

被害総額 3,404,500 千円

(単位：件、千円)

種別	県分		市町村分		合計		備考
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	
河川	56	2,949,000	11	105,000	67	3,054,000	岩見川など 39 河川
道路	7	120,000	12	230,500	19	350,500	横手大森大内線など 17 路線
合計	63	3,069,000	23	335,500	86	3,404,500	

(5) 道路規制の状況

<県管理道路の通行規制状況>

- ・ 全面通行止め 1 路線、 1 箇所 (大型車のみ通行止め)
- ・ 片側交互通行 3 路線、 3 箇所
- ・ 規制解除 13 路線、 14 箇所

<大型車通行止め区間>

- ・ 横手大森大内線 (横手市大森町坂部字中田面) L=0.1 km (道路欠壊)

※普通車は片側交互通行可能

「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」の骨子案について

平成29年9月6日
企画振興部

第1 プランの策定にあたって

- (1) 策定主旨
これまでの取組の成果や現在の社会経済情勢を踏まえ本県の最重要課題である人口減少を克服し、秋田の元気の創造に向けた県政の運営指針とする。
- (2) 推進期間
平成30年度～平成33年度

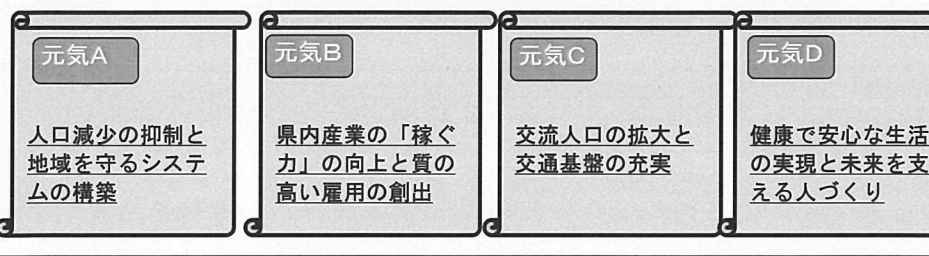
第2 「時代の潮流」・「現状と課題」

- | | |
|--|--|
| <p>1 時代の潮流</p> <ul style="list-style-type: none"> ■東京一極集中の進行と全国的な人口減少 ■生産年齢人口の減少に伴う労働力不足 ■緩やかな回復が続く日本経済 ■グローバル化の進展とアジア経済の成長 ■第4次産業革命の進展と就業構造の変革 ■「田園回帰」を志向する若者等の増加 ■一億総活躍社会の形成に向けた働き方改革への対応 等 | <p>2 現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ■全国のすう勢を上回る人口減少の抑制 ■若年層の県外流出に歯止め ■県内総生産と県民所得の向上 ■付加価値性の高い産業構造への転換 ■若年層に魅力ある職場づくり ■女性や高齢者の更なる就業促進による労働力不足への対応 等 |
|--|--|

課題を克服し「元気なふるさと秋田」の実現を目指す

第3 目指す姿とその実現に向けて

- | | |
|---|--|
| <p>1 目指す将来の姿～「高質な田舎」を目指して～</p> <p>人口減少を抑制し、県民が豊かさを実感し、生き生きと暮らすことができる「ふるさと秋田」</p> | <p>2 目指す姿の実現に向けた推進方針</p> <p>社会減や出生数減に歯止めをかける「攻め」と、住民の共助の推進や市町村との協働など「守り」の両面から人口減少の克服を目指す。</p> |
| <p>3 実現に向けた重要な視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ■産業振興による仕事づくりにより首都圏等への人口流出に歯止め ■移住・定住対策の推進により首都圏等から秋田への人の流れを創出 ■若い世代の結婚・出産・子育てに関する希望の実現 ■多様な主体との協働の促進等により健康で安全・安心な地域社会を形成 | <p>4 施策展開にあたっての横断的な視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ■賃金水準の確保や就労環境の改善を促し、女性や若者に魅力ある職場を創出 等 ■本県産業界のニーズに応じた、即戦力となる人材を県内高等教育機関などで育成 等 ■元気な高齢者の働く場の拡大など、人口減少下においても必要な担い手を確保 等 ■AIやロボティクス技術などを地域課題の解決や産業の生産性向上に活用 等 |



第4 重点戦略

4つの元気創造を目指し、本県の先進性や優位性を最大限生かしながら、今後4年間で重点的に取り組むべき施策を“6つの戦略”として推進する。

※戦略名については仮称

- | |
|--|
| <p>ふるさと定着回帰戦略</p> <p>戦略1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会減抑制に向けた雇用の場の創出・人材の育成 ・若者の定着・回帰と移住の促進による秋田への人の流れづくり ・結婚や出産、子育ての希望をかなえる全国トップレベルのサポートの推進 ・「小さな拠点」の形成など活力にあふれ、安心して暮らすことのできる地域社会づくり 等 |
| <p>成長産業振興戦略</p> <p>戦略2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成長分野の競争力強化とコネクタ―ハブ機能を担う中核企業の創出・育成 ・国内外の成長市場の取り込みと投資の促進 ・若者や女性が活躍する働く場の拡大と就業構造の変革に対応した産業人材の育成 等 |
| <p>稼ぐ農林水産業創造戦略</p> <p>戦略3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋田の農林水産業を牽引する多様な人材の育成 ・しいたけ日本一達成などによる複合型生産構造への転換の加速化 ・実需との結びつき強化やICTを導入した低コスト経営の展開等による戦略的な秋田米の生産販売 等 |
| <p>人・もの交流拡大戦略</p> <p>戦略4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界的に人気の高い秋田犬など秋田ならではの魅力を生かした観光の振興 ・日本酒やいぶりがっこ等のブランド化などによる秋田のうまいもの商品力向上と販路拡大 ・東京オリンピック・パラリンピック等を契機としたスポーツによる交流人口の拡大と「beyond2020プログラム」等を活用した本県文化の国内外への発信 等 |
| <p>いきいき健康長寿戦略</p> <p>戦略5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣改善、フレイル予防など健康づくり県民運動の展開による「健康寿命日本一」への挑戦 ・高齢者に特有の疾患等の予防・治療等の研究推進や在宅療養などのニーズに対応した医療提供体制の整備 ・高齢者、障害者等を地域で支え合い、誰もが安全・安心に暮らせる地域共生社会の構築 等 |
| <p>地域を支える人材育成戦略</p> <p>戦略6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの未来を主体的に切り拓き、秋田を支える気概に満ちた人材の育成 ・少人数学習などによる子ども一人一人に応じた教育の充実と確かな学力の定着 ・地域社会と産業の活性化に資する高等教育機関の振興 等 |

4つの元気の創造に向けて、戦略を展開

第5 基本政策

県民の生命や財産を守る取組など、基礎的な生活環境の整備等の促進に向けて、継続的に取り組むべき基本的な政策を推進する。

- | | |
|---------------|-----------|
| 県土の保全と防災力強化 | 環境保全対策の推進 |
| 安全・安心な生活環境の確保 | ICTの活用 |

第6 プランの推進にあたって

- 【プランの実効性を確保し、効果的・効率的に推進するための基本姿勢】
- 県民、市町村、企業、大学、NPOなど多様な主体との協働による取組の推進
 - 新行財政改革大綱(第3期)の取組の着実な推進
 - 政策評価システム等PDCAサイクルに基づく進行管理 等

県・市連携文化施設について

平成29年9月6日
観光文化スポーツ部

1 基本設計（素案）について

(1) 施設規模等

4月の基本設計プロポーザル提案に沿った形で設計作業が進んでいる。

	文化施設本体	駐 車 場
①構 造	S R C造一部S造	S造
②階 数	地上5階/地下1階	地上1階（1層2段）
③延床面積	約21,500㎡	約2,480㎡（仮）
④敷地面積	約17,401.55㎡（県民会館13,467.10㎡、和洋高校3,934.45㎡）	
⑤高 さ	最大37メートル（高機能型ホールフライタワー）	
⑥席 数	高機能型ホール2,000席、舞台芸術型ホール 800席	

(2) 和洋高校敷地の一体利用

和洋高校の敷地を取得することにより、駐車場側から施設への直接の出入りができるようになり、新文化施設の敷地全体における回遊性が高まったほか、ホールの並列配置や広大なエントランスホールの設置が可能となるなど、整備計画案に比べて余裕のある施設配置となっている。

(3) 県民意見の反映

現在県民によるワークショップを進めているが、秋田らしさを演出するデザインや素材の活用、リハーサル室を小ホール的に活用するための設備の設置を求める意見などが示されており、可能な限り設計に反映するように努めていく。

2 和洋高校敷地の取得に係る交渉状況について

(1) 土地取得の進捗状況

5月以降、地権者等と取得に向けた協議・調整を進めた結果、今年度中に地権者との間で土地売買契約を締結する見通しが立った。

なお、和洋高校の移転が完了し、土地引渡の条件が整う平成32年9月までに抵当権を抹消することについて、土地売買契約と同時に地権者と抵当権者が書面で約定するなど、安定的な土地の確保を目指すこととしている。

- ・取得面積 3,934.45㎡（実測面積）
- ・予定取得価額 146,500,000円
- ・予定引渡期限 平成32年9月末日

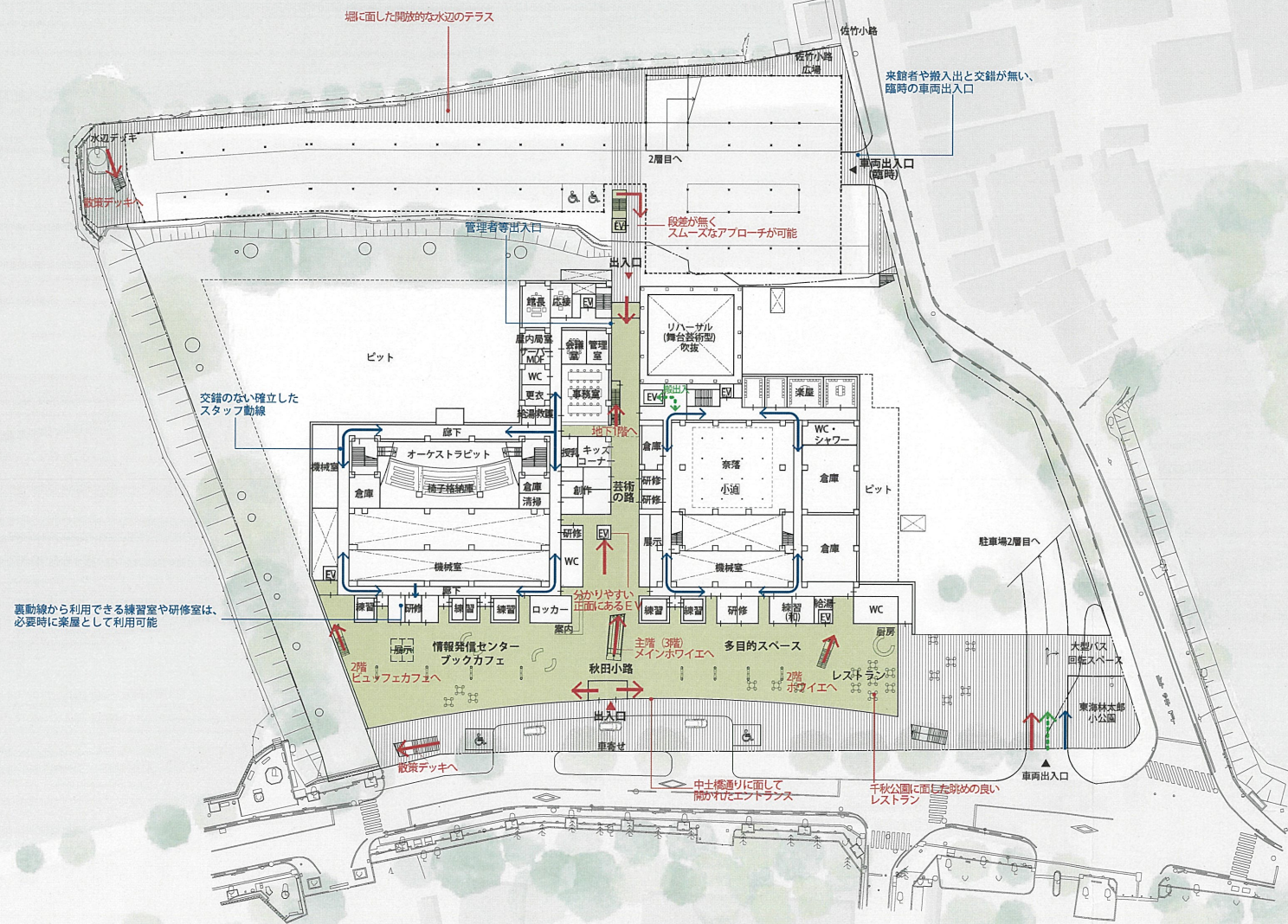
(2) 建物移転補償の進捗状況

和洋高校校舎については、現在移転に向けた補償費の算定及び移転条件等の協議を行っており、今後、補償額の整理、契約締結に向けた合意形成を進めたい。

3 今後のスケジュールについて

- 12月議会 基本設計（案）、和洋高校移転補償費を含む全体事業費等の提示
和洋高校土地取得、建物移転補償費、実施設計予算の計上
- 29年度内 和洋高校土地取得及び建物移転補償契約の締結

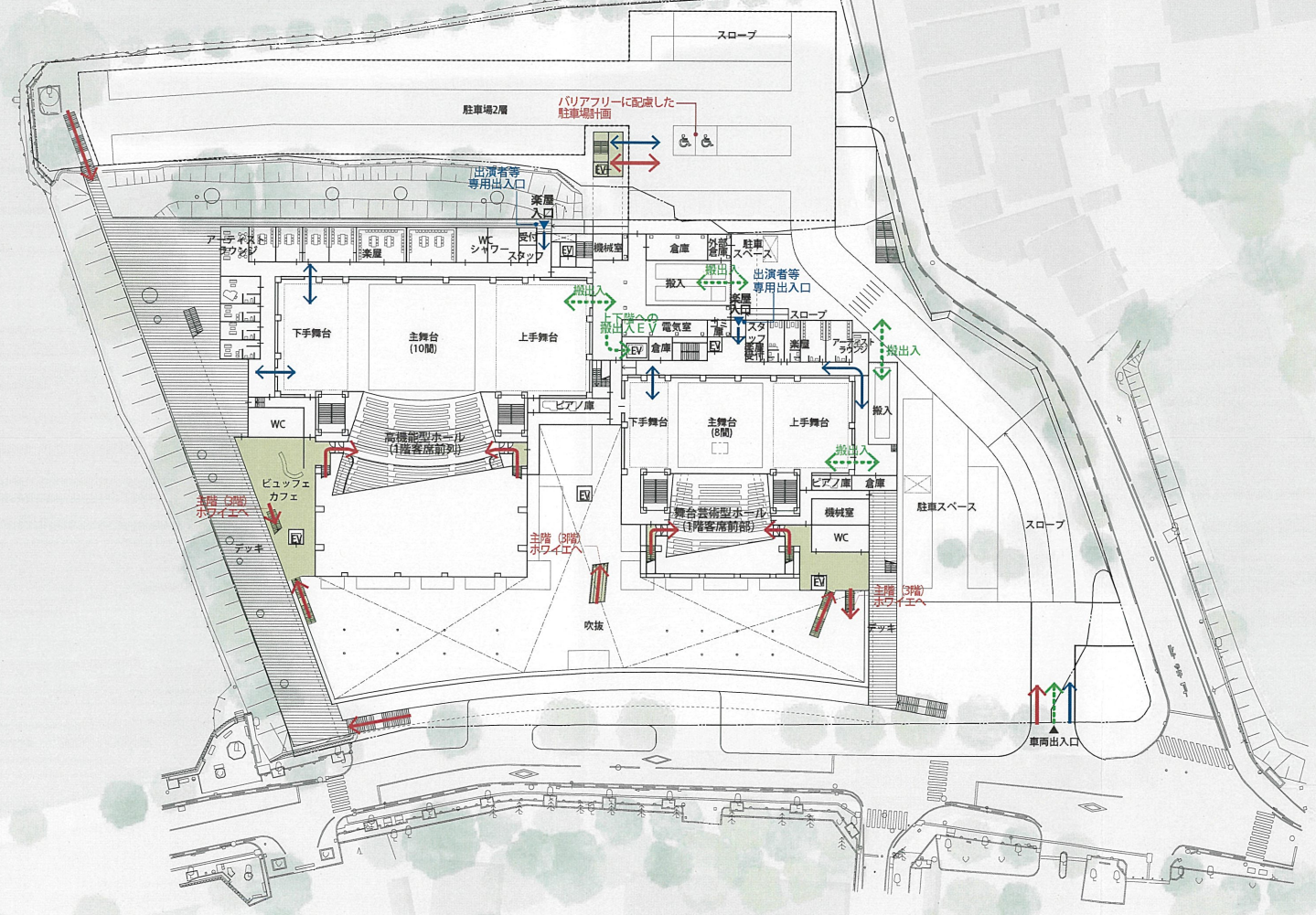
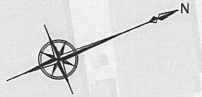
- 凡例
- 来館者動線 →
 - 主催者・出演者・スタッフ動線 →
 - 搬出入動線 →



1階：秋田小路レベル

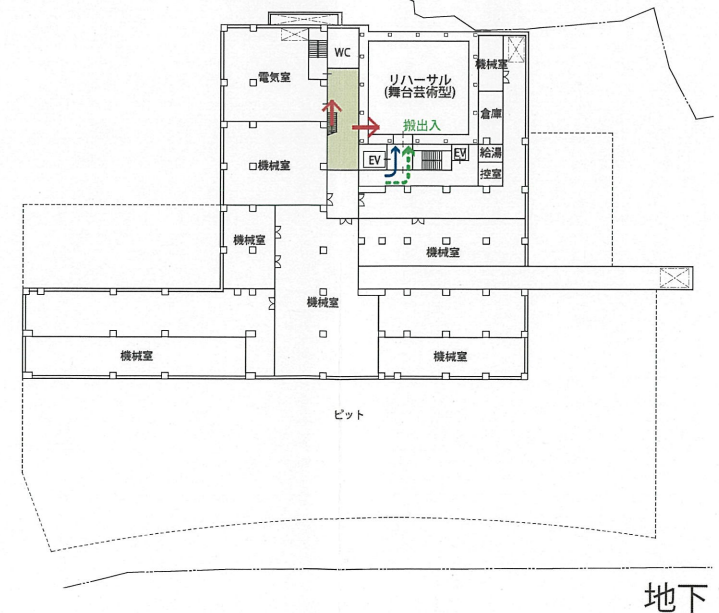
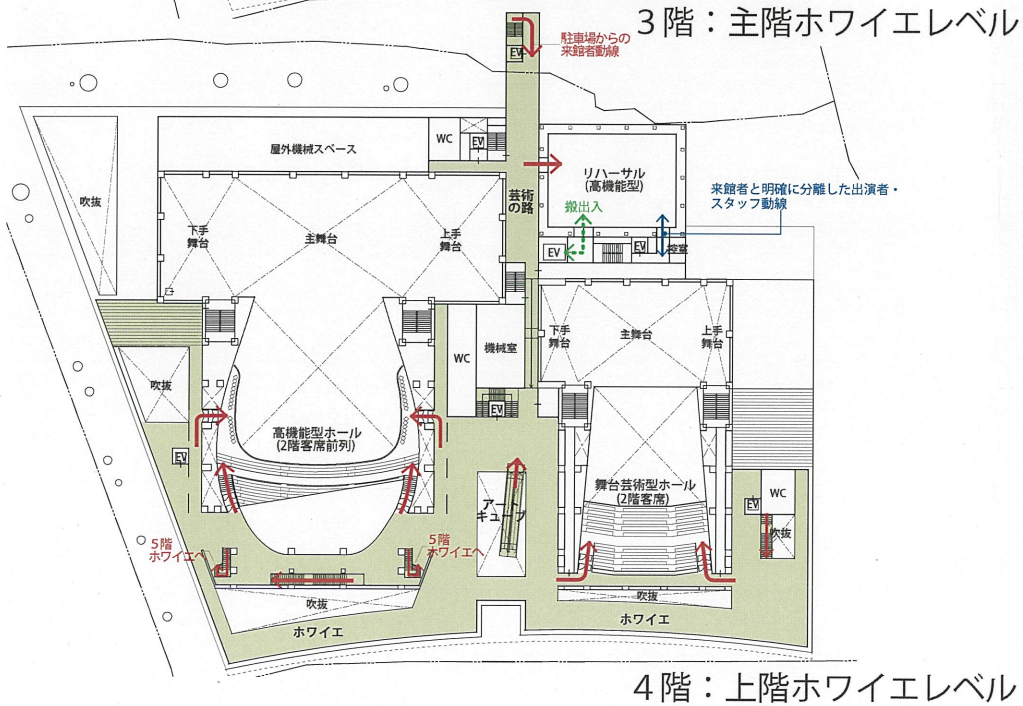
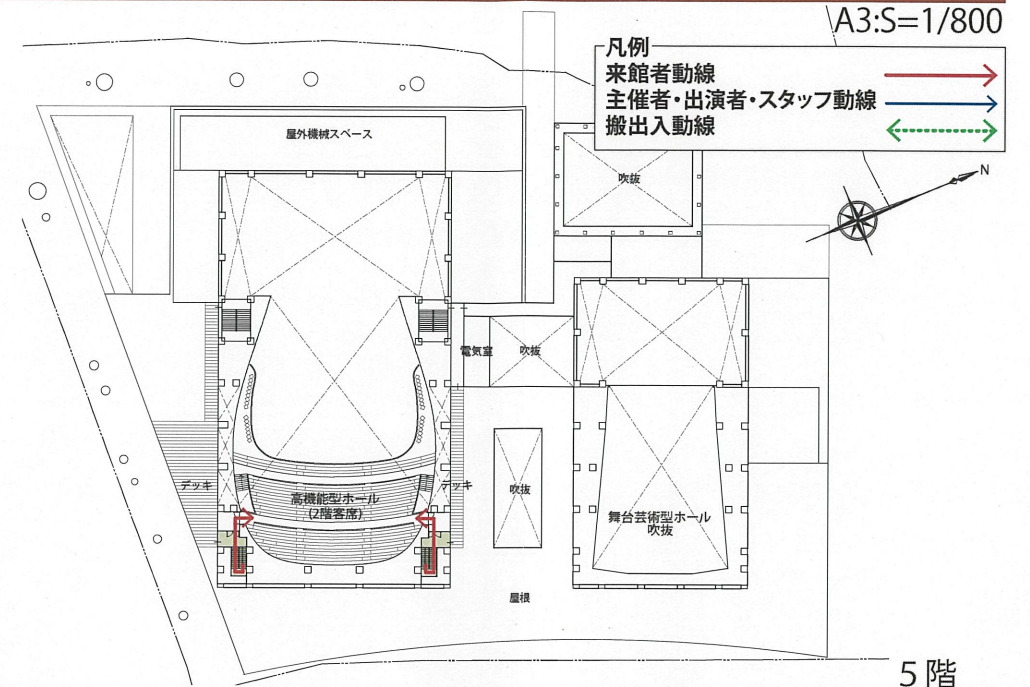
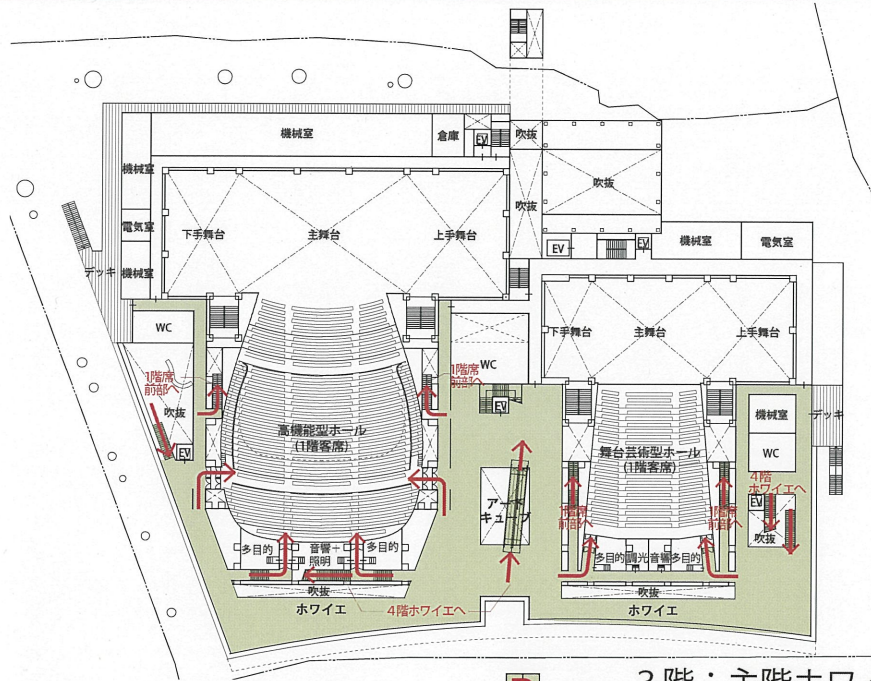
※素案の段階であり、今後の検討により変更する場合があります。

凡例	
来館者動線	→ (Red arrow)
主催者・出演者・スタッフ動線	→ (Blue arrow)
搬出入動線	→ (Green dashed arrow)



2階：舞台レベル

※素案の段階であり、今後の検討により変更する場合があります。



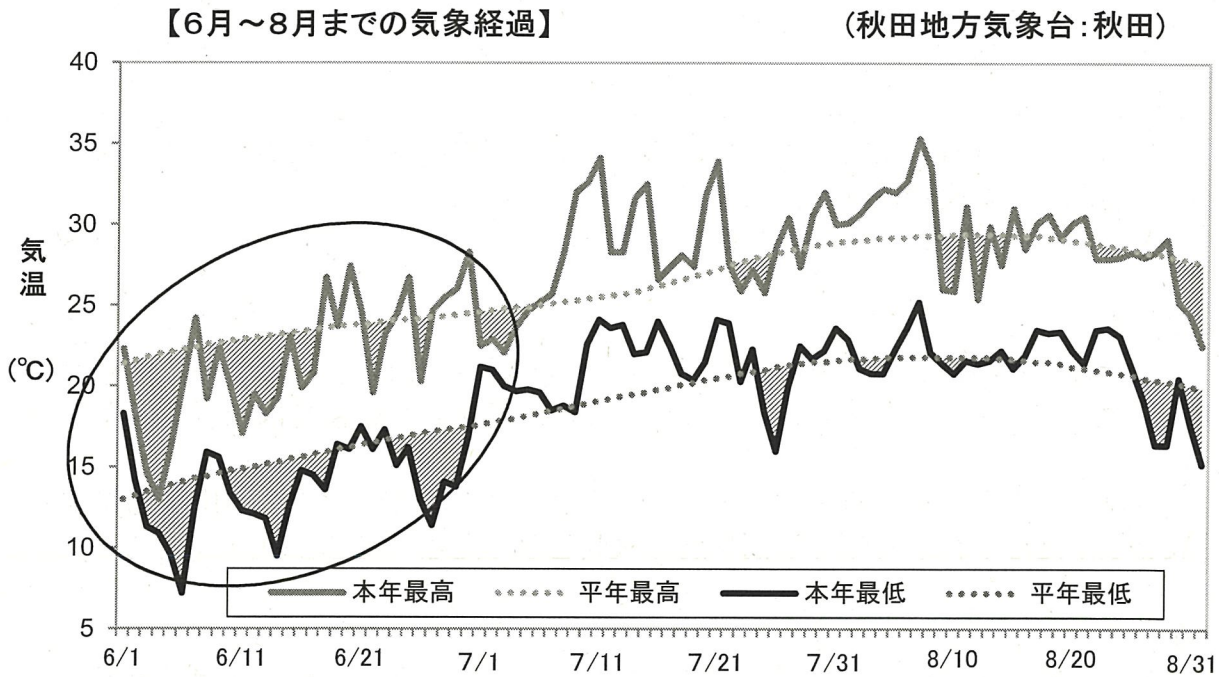
※素案の段階であり、今後の検討により変更する場合があります。

農作物の生育状況等について

平成29年9月6日
農林水産部

1 気象経過（秋田市）

- 6月の気温は低温で推移し、平年を大きく下回る日が多かった。その後、7月中旬から8月上旬にかけては高めに経過し、8月中旬以降は平年並で推移した。
- 7月中下旬と8月下旬に集中豪雨があったため、7～8月の降水量は平年より多くなった。
- 日照時間は、6～7月はやや多く、8月は平年並で経過した。



2 各作目の生育状況

(1) 水稲

- 6月の低温により生育が停滞して分けつが進まず、平年より茎数不足となった。その後、7月の好天により生育が回復し、出穂期は平年より2日遅い8月6日となった。8月15日現在の本県の作柄概況は「平年並」となっている。
- 地域別に見ると、県南は、田植えが遅く、6月の低温の影響を強く受けたことに加え、7月の豪雨の影響もあり「やや不良」となっている。
- 出穂後、日照時間が平年より少なく推移していることから登熟がやや緩慢で、根の活力を維持する適正な水管理と斑点米カメムシ類の防除指導を徹底している。

【参考：東北の概況】

- 青森県が「平年並」、他の4県は「やや良」となっている。

(2) 大豆

- 6月の天候不順により、平年より播種作業が遅れた。また、その後の断続的な降雨の影響で中耕作業も遅れたため、草丈が短く、分枝数も少なく、小ぶりになっている。

(3) 野菜

- 6月の低温等により全般的に生育が遅れ、8月末までの野菜全体の出荷量は前年比で2割程度減少している。

7月以降、気温や日照時間が平年並に推移したことから、今後出荷予定の野菜の生育は順調である。

- えだまめは、8月末までの出荷量が前年比3割程度の減少となった。
今後、出荷を迎える「あきたほのか」等の秋豆の生育は順調であり、9月以降は前年を上回る出荷量を見込んでいる。
- すいかは、着果数の減少により出荷量が前年比で2割程度少なくなった。価格については、前年並の高単価で推移した。
- 夏ねぎは、8月末までの出荷量が前年比で1割程度減少したが、単価が高目で推移したため、販売額は前年並となっている。
主力の秋冬ねぎの生育は概ね順調である。

(4) 果樹

- 全般に開花期は平年並であったが、6月の低温等により、一部で果実がやや小さめになっている。7月以降、天候が回復したことから、収穫量はほぼ平年並を見込んでいる。
- 5月の降ひょうで被害が大きかった湯沢市では、おうとうで前年比3割程度の減収となったほか、りんごで2割程度の減収となる見込みである。

(5) 花き

- 6月の低温等によりキク類の生育が遅れたため、単価の高いお盆向けの出荷が少なかった。彼岸向けは生育は順調である。
- リンドウは、冷涼な気候を好むため順調に生育し、単価の高いお盆の需要期での出荷となり、彼岸向けは生育も順調である。
- ダリアは、一部で豪雨被害があったものの、露地・施設栽培とも全般的に生育は順調である。

知事の台湾訪問結果について

平成29年9月6日
観光文化スポーツ部

8月22日(火)から25日(金)にかけて、知事が台湾を訪問し、誘客促進等に関するトップセールスを行った。

また、この日程に合わせて、県内の市町村長や金融機関、商工関係団体なども台湾を訪問し、全体では48名が参加した。

1 訪問結果

- 今秋以降のチャーター便運航を要請するため、現地の航空会社3社を訪問し、トップセールスを行った。

その結果、これまでの中華航空、エバー航空に加え、今年2月に初めて本県へのチャーター便を運航した遠東航空えんとうにおいても、秋季運航されることとなったほか、10月には中華航空により高雄との間で運航されることとなった。

- さらに、現地の航空会社や旅行会社、政府機関等の関係者を招いた交流懇談会を開催し、市町村長によるプレゼンテーションや意見交換などにより、観光PRを実施した。

- また、昨年、国際交流の促進に協力して取り組む覚書を締結した高雄市の陳菊市長ちんきくを表敬訪問し、今後も相互の交流を促進させていくことを確認した。

2 今後の対応

- 現地の航空会社3社からは、冬季チャーター便についても前向きに検討したいとの話があったことから、運航に向けて働きかけを強化する。

- 高雄市とは、覚書に基づき、来年1月の田沢湖・澄清湖ちようせいこ姉妹湖締結30周年行事や2月の高雄ランタンフェスティバルにおいて、秋田フェアを開催し、本県観光をPRするほか、由利高校が高雄市の文山高級中学ぶんざんと学校交流を行う予定であり、今後とも、観光、教育、文化など多岐にわたる分野での交流拡大を目指していく。

2019 FISフリースタイルスキーワールドカップ 秋田たざわ湖大会の開催について

平成29年9月6日
観光文化スポーツ部

- FISフリースタイルスキーワールドカップ（モーグル・ワールドカップ）は、県内唯一の国際大会として、たざわ湖スキー場において2015大会から開催しており、これまでの開催を通じ、世界トップクラスのコースや常設のジャッジハウス、円滑な大会運営などにより、選手及び国際スキー連盟からも高い評価を得ている。
- また、モーグル・ワールドカップの継続開催は、2018年の^{ピョンチャン}平昌冬季オリンピック、2022年の^{ベキン}北京冬季オリンピックに向けた合宿誘致のほか、モーグルの聖地「秋田たざわ湖」の魅力を世界に発信し、冬季観光誘客にもつなげることができる絶好の機会ともなることから、仙北市及び県スキー連盟等と協議のうえ、2019年の開催を引き続き申請することとした。
- なお、開催にあたっては、大会運営に支障のない範囲で経費の節減を図るとともに、新たなスポンサーの確保に努めるほか、モーグル・ワールドカップ開催地としての強みを活かして国内外からの誘客を促進し、田沢湖・角館エリアをはじめとした本県の観光振興にも結びつけていく。

※ 2019大会開催に向けたスケジュール

- ・平成29年9月：国際スキー連盟へ開催申請
- ・平成30年5月：国際スキー連盟総会において開催地及び開催日の決定

[大会概要]（2018大会）

- ・大会名：2018 FISフリースタイルスキーワールドカップ秋田たざわ湖大会
- ・主催：国際スキー連盟、(公財)全日本スキー連盟
- ・運営主体：FISフリースタイルスキーワールドカップ秋田たざわ湖大会組織委員会
(秋田県、仙北市、秋田県スキー連盟等)
- ・開催期間：2018年3月3日（土）～4日（日）
- ・会場：秋田県たざわ湖スキー場 黒森山コース
- ・競技種目：モーグル（男子・女子）、デュアルモーグル（男子・女子）
- ・総事業費：125,000千円
- ・来場者数：約8,000人（2017大会）
- ・メディア露出によるPR効果：約207,000千円（2017大会）